

幼稚園での歌や手遊び

～中期、後期の取り組みから考える～

杉山 砂寿

幼稚園教育要領の「表現」の領域では、感性を豊かにすることや、表現を楽しむことをねらいとしている。また、その内容では、様々な表現的な活動を楽しんだり、味わったりするという文章表現が多く記されている。昨年度、筑波大学附属聴覚特別支援学校紀要（2017）で、幼稚部入学初期の歌や手遊びの導入、展開を今までのクラスの指導から振り返り、その中で、どのように子ども達と楽しみ、味わってきたかについて記した。そこでは、歌や手遊びが、子ども達にどのような効果、成長をもたらすのかについても考えた。今年度は、中期から後期にかけ、教師の子どもへの働きかけや、子どもの変化、成長や成果について考えたい。

キー・ワード：歌 手遊び 表現 イメージ 楽しい 音 踊り リズム

1 はじめに

幼稚園教育要領第1章には、『幼児期における教育は～中略～幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。』こと、第2章には、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」各領域のねらい、内容が示されている。各領域に示すねらいは、幼稚園における生活の全体を通じ、幼児が様々な体験を積み重ねる中で相互に関連をもちながら次第に達成に向かうものであること、内容は、幼児が環境にかかわって展開する具体的な活動を通して総合的に指導されるものであることに留意しなければならないと示されている。

幼稚部での活動は、生活と遊びが主体となり、自分から様々な物・人・出来事に興味や関心を向け、それらにかかわり、考え、感じ、心を動かし、あらゆる物事を結びつけ、気づき、覚え、それらを表現し、また様々な物・人・出来事などに興味や関心を向け・・・というサイクルを繰り返し、幼児は総合的に学習していると考えられる (Fig. 1)。歌や手遊びも、毎日繰り返して楽しむことの一つであるとすれば、それは幼児にとっては遊びであると捉え、聴覚障害幼児が、毎日の活動の中で、どのように音楽、リズムなどを楽しみ、興味や関心をもって活動に参加していくのかを考える。

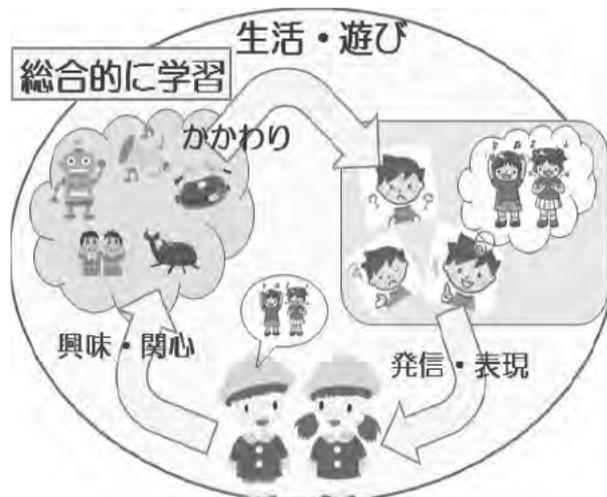


Fig. 1 幼児の学習サイクル

昨年度は、毎日の活動の中での歌や手遊びについて、聴覚障害幼児が、どのように音楽やリズムなどを楽しみ、興味や関心をもって活動に参加していくかという部分に焦点を絞り、特に3歳児で初めての集団生活で、歌や手遊びに興味や関心をもたせていくにあたり、教師の配慮や工夫、子どもの変化や成長について記した。

今年度は、3歳児の時期に育ててきた歌や手遊びへの興味や関心を4歳児、5歳児で、どのように変化させ、子どもの成長へとつなげていくか、実践を振り返り、考察していくことにする。

2 指導において大切にしたこと

(1) 子どもの興味や関心を引き出す

どのような活動においても、子ども自身の自発的な興味や関心をいかに引き出していくかということが大切であると考えている。そのためには、子どもの経験や理解などに応じた活動の導入、展開の仕方に工夫や配慮が必要となる。子どもの発信や表現してきたことへの取り上げ方も重要になり、それらは、子どもの感性やイメージを広げ、あらゆることへの豊かな気づきへとつなげていくことができると考える (Fig. 2)。

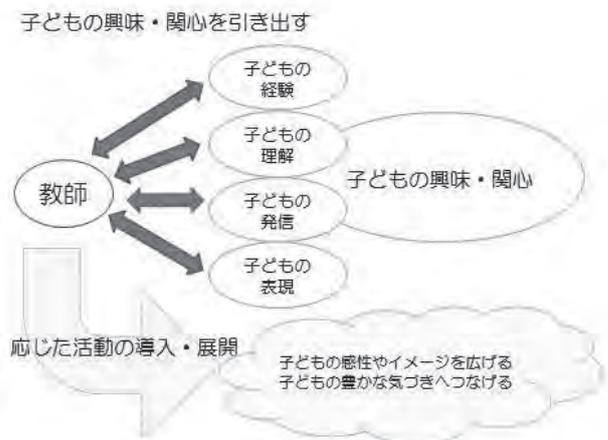


Fig. 3 子どもの興味や関心を引き出す

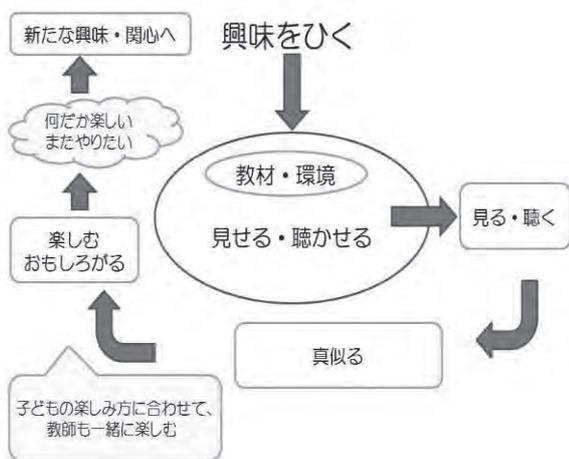


Fig. 2 子どもの興味や関心の広がり

子どもの興味や関心を、引き出していくためには、子どもの経験、発信、表現、発言など、また、子ども自身がどの程度の理解をしているのかなどを、教師がしっかりと把握、理解し、それらに応じた活動の導入や、展開の仕方などに工夫や配慮が必要となる。それらは、子どもの感性やイメージを広げることや、豊かな気づきへとつなげると考える (Fig. 3)。また、自発的に興味や関心をもつことのできる子どもは、意欲的、かつ楽しんで活動に参加することができる。活動に意欲的に参加できるということは、教師や友達と一緒に楽しんでいる経験となり積み上がり、子ども自身が活動の内容をより深く知ろうとしたり、理解したりすることや、自分から表現をしようとする態度につながっていくと考える。

歌や手遊びだけではなく、普段の様々な場面でのやりとりが、子ども自身の新たな発信や表現、次の興味や関心へとつながっていると考える。そのため、いかに子どもに興味や関心をもってもらえるか、それらをきっかけに、イメージを広げられるかを大切にしたい。

(2) 発達、成長の段階に応じて変化させる

どの段階においても、歌や手遊びの導入では、子どもの興味や関心を引き出していくために、教師の言葉かけ、動きや表情、リズム感や声の調子などを示していくことは大切なことであるが、年齢や子どもの理解の度合いにより、動作や表情などでの理解から、絵や言葉などを通しての細かな理解へと意識的に変化させていくことは大切だと考えている。つまりそれは、具象的なものから抽象的な理解力、思考力を育てていくことへとつながると考えているからである (Fig. 4)。

例えば、初期段階で教師の動きなどを中心に楽しんで歌や手遊びも、中期段階では、歌詞カードや挿絵から楽しめるように誘ってきた。初期段階から中期段階までの間に、歌や手遊び以外の活動ややりとりの中で、理解できること、イメージできるものを増やしていけるよう、常にかかわってきた。また、繰り返し触れている歌や手遊びは、ピアノやCD音源で楽しむことができるよう変化させてきた。そして、中期段階で新たな歌や手遊びを提示する場合

8 幼稚園での歌や手遊び

も、子どもがより豊かな事柄をイメージしたり、表現したりすることができるよう、初期段階からの様々な経験や学習を積み上げておくことを大事にしてきた。後期段階では、子ども自身が歌詞の内容や言い回しから、実際にどのような意味なのかを考えさせたり、歌詞から簡単な遊びに発展させたりして楽しむことができるよう、準備、教材の工夫をしたりもした。子ども自身が考え、子どもなりの答えを見つけ出していけるよう配慮してきた。



Fig. 4 発達や成長の段階に応じて変化させる

3 実践の例

(1) 「たなばたさま」の歌

3歳児期、教師の動きに合わせて楽しむことができた様子であったが、4歳児期では、動きやリズム、発声、歌詞の部分的な真似などを楽しむ様子が見られるようになった。また、5歳児期になると、「ノキバッテ ナニ」「スナゴツテ ナニ」など、わからない歌詞の意味を知ろうとしたり、歌詞に合わせて動きや表現を考えようとする様子が見られるようになった。七夕まつりは、毎年繰り返される行事であるため、3年間を通して色々な経験が積み重ねていくことができ、同じ歌でも子どもの視点を変えさせながら扱うことができる。このように、子ども達の興味や関心を変化させ、常に色々な場面がかかり、やりとりする中で、様々な物、事などを結びつけ、教師や友達と一緒に楽しみながら、子ども自身が考え、その子なりの答えを見つけ出し、イメージを広げていくことができるよう配慮していくこ

とが大切であると考え (Fig. 5)。

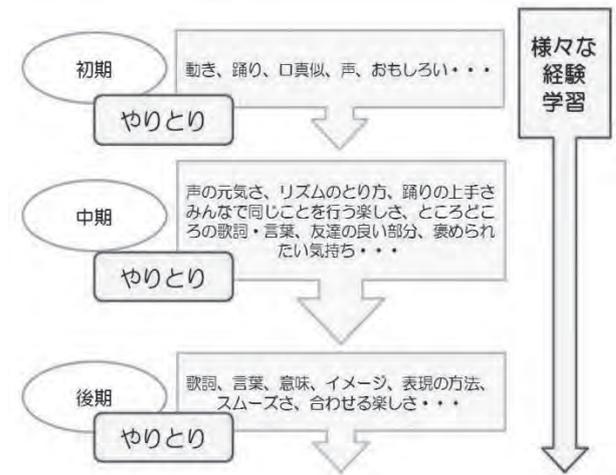


Fig. 5 やりとりの変化

(2) 「あめふりくまのこ」の歌

5歳児になって初めて扱ったこの歌の場合、歌詞に沿ってくまのこの気持ちを考えながら身体表現を楽しんだり、くまのこが頭に乘せた葉っぱを想像したりする様子も見られた。例えば、歌詞にある“いたずらくまのこかけてきて”という部分では、今までの経験や普段のやりとりなどから、くまの子どもであることは理解できたが、“いたずら”という言葉は、すぐには理解できなかった。また、“かけてきて”とは、書ける、掛けるという意味だとイメージできたが、駆けるという意味に辿り着くのは、すぐには困難であった。歌詞カードや絵本などの挿絵から、走ることなのかもしれないと想像した子どももいたが、やりとりの中では、自信がもてずにいる様子だった。かけっこという言葉は知っていても、駆ける(駆けてきて)が、この歌の場合、楽しげで軽やかに走ってくる様子と捉えるのは難しいと思われた。では、それらをどのように子ども達にイメージさせていくのかというと、いたずら、駆けるという言葉の意味を直接的に教えるのではなく、日常の遊びややりとりの中で、いたずらをしたりされたりする場面を意図的に作ったり、いたずらがテーマの絵本を読み聞かせたりしながら子どものイメージ作りを行った。駆けてきてという部分も、挿絵から子どもと考えたり、歌詞を読み進み話し合ったり、生活の中

で子どもが駆ける場面を取り上げ、言葉に結びつけたりしながら、子ども自身が自分でイメージを作っているよう配慮した。また、もし自分がくまの子だったとしたら、どうしたかな、どんな気持ちなのかな、など、子どもの発想や発言を引き出し、楽しみながら歌を遊びにしたり、普段のやりとりを歌に結びつけたりして一緒に楽しんできた (Fig. 6)。



Fig. 6 活動の様子

4 考察

歌や手遊びの活動だけではなく、歌や手遊びを通した様々なやりとりや話し合いをする場面で、聞く、見る態度、頭の中でイメージする力、言葉や記憶力などが成長することにつながった。また、理解したことや、イメージしたことを表現する力にもつながっていったと考える。また、繰り返し歌う中で、リズム感、身体の動かし方、一体感など、様々な成長に影響したものと考え (Fig. 7)。

歌や手遊びからというより、
歌や手遊びを通した日常のやりとりや話し合いにより

- ・聞く、見るなどの傾聴態度の向上。
- ・言葉の理解、語い数の増加。
- ・様々なことを覚えておこうとする気持ち。記憶力。
- ・相手に伝えたいという気持ち。表現力。
- ・頭の中で様々な事を関連づけたり、想像したりする力。イメージ力。
- ・リズム感。
- ・身体の動き。
- ・一体感。

など

Fig. 7 子どもの変化、成長

5 まとめ

歌や手遊びを通して、子ども達が成長した部分は一部分ではなく、様々な要素が絡み合い、影響し合い、総合的に成長をしたものとする。言葉を広く、豊かに、楽しく理解し、イメージし、それらを言葉で広く、豊かに、楽しく表現し、伝え合う。そうしたやりとりを通し、Fig. 8 に示した様に、様々な力の成長を促していくことが大切であると考えている。

これらを、幼稚園教育要領の各領域のねらいに照らし合わせると、Fig. 8 の要素は「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」のあらゆる部分に示されていることがわかる。様々な事柄が絡み合い、影響し合うと考えると、どのような活動、やりとりにおいても、子どもの興味や関心から Fig. 8 のような成長を望んでいけるよう、教師があらゆることを見て、考え、工夫しながら、学習指導要領にも示されている通り、総合的に指導していくことが大切であるとする (Fig. 8)。



Fig. 8 歌や手遊びを通して考えられる成長

〔引用・参考文献〕

文部科学省(2008)幼稚園教育要領〈平成20年告示〉
 杉山砂寿(2016)幼稚園部3歳児における子ども同士の
 かかわり合い～劇遊びを通して～. 筑波大学附属
 聴覚特別支援学校紀要, 38, 8-11
 杉山砂寿(2017)幼稚園部での歌や手遊び～初期の取り
 組みから考える～. 筑波大学附属聴覚特別支援学
 校紀要, 39, 19-22